

令和3年度 第3回 春光台・鷹の巣まちづくり推進協議会 会議録

会議概要	
日 時	令和4年3月18日(金曜日)午後6時30分から午後8時00分まで
場 所	旭川市春光台公民館講座室
出席者	委員(14名, 50音順) 池田委員, 伊林委員, 上森委員, 大久保委員, 小原委員, 菊池委員 高橋委員, 竹内委員, 玉井委員, 早坂委員, 水野委員, 宮上委員 山本委員, 横山委員 (欠席者: 杉本委員) 事務局 春光台公民館: 日比野館長, 藤村専門指導員, 高橋事務 旭川市地域まちづくり課: 今課長, 大西課長補佐, 吉岡
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1: 次年度の事業に係る提案
	資料2: 春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラム(案)
	資料3: 畑づくりプロジェクト(ふくふくファーム)

議 事 の 内 容

1 次年度の事業について

【会 長】

- 前回(10月)の会議では, 現段階では実施の有無についての判断をすることが難しいとの結論であったが, 下記の事業を実施するに当たっては予算の措置が必要であることから, 事業の実施について, 委員の皆様のご意見を伺いたい。

(ア) 子ども支援事業

【委 員】

- 今までのやり方を見直し, 小学校や中学校がどのような支援を望んでいるのかを確認した上で事業の内容を検討し, これからも子どもたちや地域とのつながりを継続して行けたらよいと考える。
- 学校としては, 今の段階では何ができるかについて具体的に言うことはできないが, 地域の方々から色々な面で支援をしていただけることは大変嬉しい。
学校としても地域に支援をお願いしたいことはあるが, 現状, 地域の方々为学校に入ることは制限されているため, 外で行う事業など, 感染のリスクを回避しながらできることなどを検討していただけたらありがたい。
- 小学校に関しては, 学校事情から放課後児童クラブに対しての学習支援を行ってきたが, 放課後児童クラブに対する学習支援についても, 今後の方向性について事業者と話し合いを進めなければならない。
- 今後の活動については, 新型コロナウイルス感染症の感染状況次第であるが, 小学校や中学校からの要請に対して, すぐに対応できる体制づくりだけは整えておく必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって実行委員会を開催できていない状況であるが, 年に1回程度は実行委員会を開催し, 現状についての共通理解を図ることが必要である。

○小中学校に対する支援事業については、今後も継続させていく旨の連絡を学校運営協議会の中でも伝えておきたい。

(イ) 高台通学合宿事業

【委員】

○子どもたちが密になることを避けると実施することができないので、現状では実施が難しいと考える。

【会長】

○宿泊の問題や食事など、子どもたちが密になることを避けることができない事業であることから、新年度の実施については見送ることとする。

(ウ) 多世代ふれあい交流会開催事業

【会長】

○新型コロナウイルス感染症の影響やデイサービスなどの福祉事業が充実してきている関係から、老人会の組織や活動が衰退してきており、招待者を老人会にこだわらないで実施することについて検討してもよいのではないかと考える。

【委員】

○多世代を対象とした交流会なので、今までのような老人会や、子どもたちも含めた形式で実施することは難しい。

○子どもたちも含めた形で実施することを考えると、屋内ではなく、屋外で行うことを考えなければならないように思う。

○今の状況では、多世代ではなく、年齢層を限定して行うことしかできないのではないかと考える。

○地区センターのような狭い空間に130人以上もの人が集まって行うことについては、感染リスクを考えると、老人会として参加するのが怖いように思う。だからといって、屋外でやることや水芭蕉見学会などに絡めて行うことを考えると、老人会以外の人たちも含めた形で行わなければならないことになるが、人数が多すぎても実施することが難しいので、そういう場合には、対象を絞らなければならないと思う。

○多世代交流という意味合いから、今までは学生を含めた形で実施をしてきたが、実施方法などについての見直しを行い、高齢者が若者に何かを教えるなどの取組についても検討してみてもどうかと考える。また、地域の敬老会などについても中止になっているので、今までとは違った形での実施方法を考えていかなければ、今までのように集まることができないのではないかと考える。

○事業がなくなると、今までの人間関係が薄れていってしまうので、色々難しい面はあるが、何かできることを考えていけたらよいと思う。

○コロナウイルス感染症が落ち着けば、従来のような形で実施することができるのではないかと思う。しかし、小中学生を交えた形で高齢者と触れ合うことでこの事業が成り立っているので、小中学生を参加させることに学校側の理解が得られなければ、この事業を実施することは難しい。また、施設の方を招待することについても長時間の参加が体力的に難しいように思うので、多世代の交流にこだわらないでできることを今は考えた方がよいと思う。

○施設の入居者については、感染のリスクなどから直接家族と会って話をするなどの対応ができていない状況にある。

○春光・春光台地域包括支援センターでは、事業の規模を縮小したり、会場を屋外に変更するなどの対応をとっており、会議などもオンラインで行っている状況なので、多世代ふれあい交流会についても規模や対象者を縮小することを検討し、それによって、従来の目的が達成されないということであれば、実施を見送るなり、大幅な変更をすることが必要だと思う。

○本日のニュースでは、新たな変異株が確認されたり、感染者が先週を上回ったとの報道がされており、小中学生については、3回目のワクチン接種を受けていない子どもたちが圧倒的に多い状況なので、今年度の実施は難しいのではないかと思う。

○鷹の巣地域の町内会では、10年以上前から白樺樹液の採取を行う行事を行っており、さらにできることとしては、フラワーロードの取組や地域の清掃活動などの屋外での活動に限られていることから、高台通学合宿や多世代ふれあい交流会などの屋内での活動は難しい。

【会長】

○今年については、多世代での交流は難しと考える。また、屋内での実施についても考えた方がよいとの意見が多いことから、実施をするのであれば、屋外で高齢者だけを集めて実施することになるのではないかと思う。

【委員】

- 地域の老人会同士の交流があまりできていない状況なので、老人会が交流するような企画を考えてもよいのではないかと思う。
- 高齢者がなかなか家から出ることができていない状況なので、高齢者を対象とした健康増進に関する事業を行うことができないかと思う。また、外での実施や一カ所に集まることは大変なので、屋内で実施し、こちらから地域に出向いて行うことを考えたらいと思う。

【会長】

- 多世代交流会として実施することについては中止し、高齢者の交流会を屋内で実施することについて計画していきたい。
- 多世代ふれあい交流会の実行委員会の各部の役員の方々に集まってもらう中で計画を進めていきたい。

(エ) コロナ禍における新規事業

①地域の防災心得の改訂

【会長】

- 平成26年3月に発行された地域の防災心得を現状に合った形に改訂して地域住民に配布したい。
- 作成に当たっては、旭川市の防災センターの職員にも参加をお願いする中で作業を進めていきたい。

【委員】

- 会長の提案に賛成である。

②畑づくりプロジェクト(ふくふくファーム)

【副会長】

- コロナ禍にあって、屋外で密を避けながら実施できることとして、畑づくりのプロジェクトについて考えてみた。
- 春から秋までの畑づくりを通して収穫までの過程や食べ物の大切さを世代間の交流の中で学び合い、合間に春光台の歴史や遺産(黒曜石、矢じり、石おのに触れる等)を体験するなどの活動を通して、郷土愛を育てていく事業にしたい。
- 昨年度、実験的に畑づくりを行い、露地栽培と空中栽培を行ってみたが、あまり規模を大きくしなければ、色々な学びができるのではないかと考える。
- 昨年度はジャガイモ、しし唐、豆類、紫蘇、ピーマン、かぼちやを栽培したが、それなりの収穫があって、参加者に楽しんでもらうことができた。
- 栽培に係るある程度の物は揃っているが、10万円程度の予算があれば十分に実施できると考えている。
- 地域の方々にこのような活動を行っているということを知っていただくことで、地域に元気を与えることができるのではないかと考えている。

【会長】

- 実施するにあたっては、収穫までの草取りや水やりなどの作業を子どもたちが継続して行うことができるのかなどの課題を整理し、事前に解決しておくことが必要であるように思う。

【委員】

- 大人の関わり方を工夫することで、よい計画ではないかと思う。

【会長】

- 郷土愛を育てるということであれば、地域で行っているフラワーロードの取組に子どもたちが参加してくれるようになればよいと思う。
- 新規事業の一つとして取り上げるが、今まで行ってきた事業を優先し、予算的に余裕があれば援助するというところで考えてほしい。

【事務局】

- この事業については、地域に広く参加者を募る中で実施することになるのか。

【副会長】

- この事業は、子ども支援をしている福屋さんを中心とした人たちの活動で、あまり範囲を広げると事業をコントロールすることが難しくなるので、参加者をある程度限定した形で実施したいと考えている。

【事務局】

- 悪い言い方をすると個人的な活動ということになるのか。

【委員】

- 有志による活動と考えたらよいのではないか。

【事務局：地域まちづくり課】

- 次年度の活動に関する話し合いなので、今の段階ですべてを決定してしまうのではなく、一つの提案として、今後、話し合いを進めていけばよいと考える。

【副会長】

- 今後の会議の中で、さらに検討を進めていただければありがたい。

2 春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラムの改訂

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- 前回の会議で配布させていただいた素案を、意見調査の結果に基づき見直したものである。
- 本日の会議で新たに提案された内容について、4ページの網掛けの部分を追加している。
- 内容について何かあれば、今週中に連絡をいただきたい。
- 今回で見直し作業は終了とし、追加修正等ある場合は、修正版の送付をもって確認とする。

3 その他

【事務局】

- 本来であれば、この時期に次年度の活動計画を示して検討すべきところであるが、今の段階では来年度の活動計画を作り上げることができない状況なので、それぞれの実行委員会を開催し、内容を具体的に示すことができるようになった段階で提案をさせていただきたい。
- 下記の内容について確認をしたい。
 - ※多世代ふれあい交流会については、各部の役員に集まってもらい実行委員会を開催し、高齢者を対象とした交流会について検討していく。
 - ※子ども支援事業についても実行委員会を開催し、学校の意向を踏まえた上で、検討をする。
 - ※高台通学合宿事業については、次年度は実施しないが、次年度の後半に実行委員会を開催し、今後の対応について検討する。
 - ※防災心得の改訂については、会長と相談をした上で実行委員会を立ち上げ、事業を進めていく。